

脱VM検討・PoCで見えてきた課題や知見

2026年10月16日

パナソニック デジタル株式会社

DXプラットフォーム三部 川口 宗良

セッション2の流れ

パート1：セッション1のサマリ

パート2：脱VMwareの提案事例

パート3：VMEの現状

構成・運用・契約を見直せる基盤へ、5つのステップで判断

1 更新条件を整理する

契約・費用の変更点を確認し、確定分と見積待ちを分ける。
更新期限から逆算して、検証期間と担当者を確認する。

2 現状を把握する

課題・構成・利用状況・依存関係・運用条件を把握する。
まず「構成一覧」と「移行できない条件」を整理する。

3 目指す姿を決める

選び直せる・費用が見通せる・一歩ずつ進める姿を具体化。
残すもの・変えるもの・担う人を決め、費用は同じ条件で比べる。

4 選択肢を組み合わせる

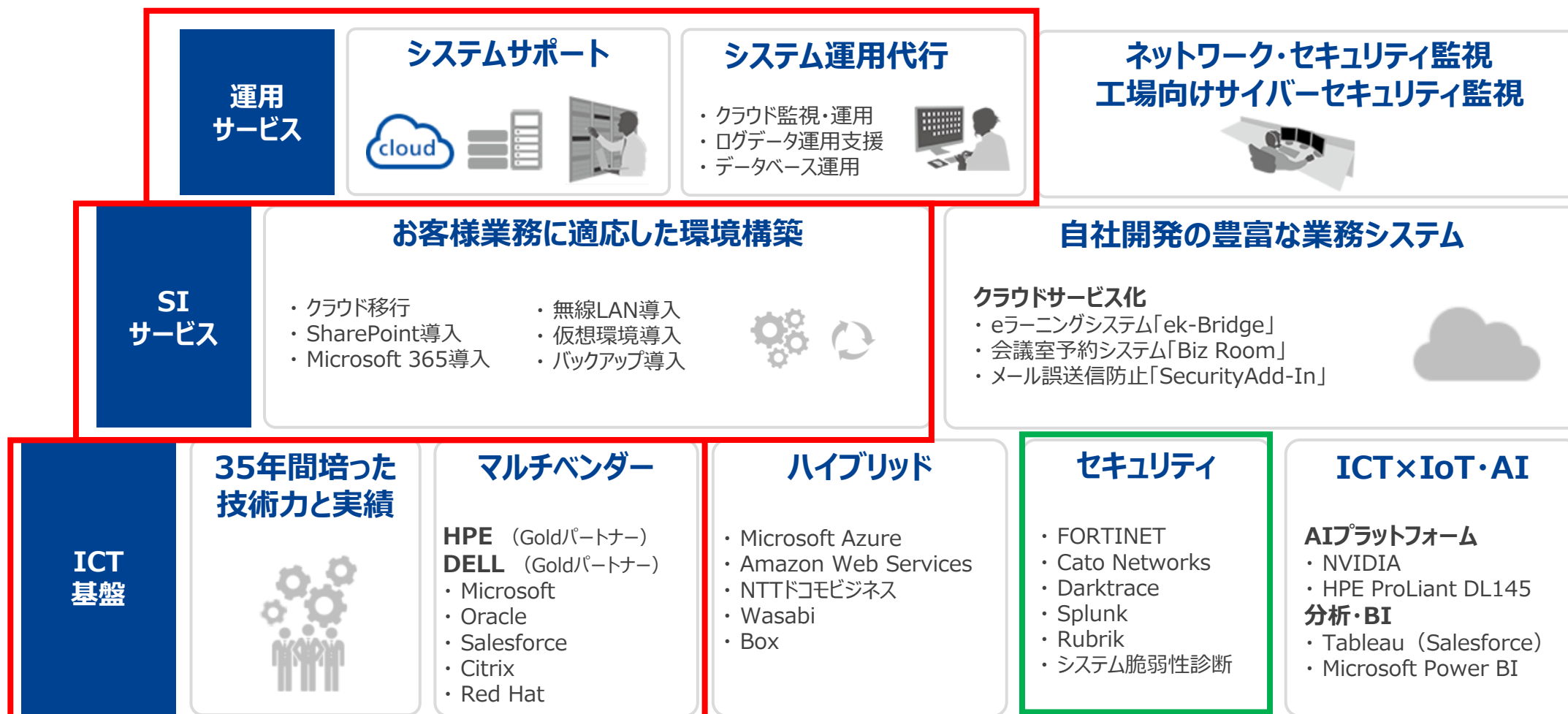
仮想化ソフト・基盤構成・契約を分けて考える。
自社の課題に合わせ、継続・別製品や購入・サービスを組み合わせる。

5 自社環境で検証する

停止復旧・運用・切り戻し・費用の条件を合意する。
技術と運用を検証し、移行できるかを判断する。

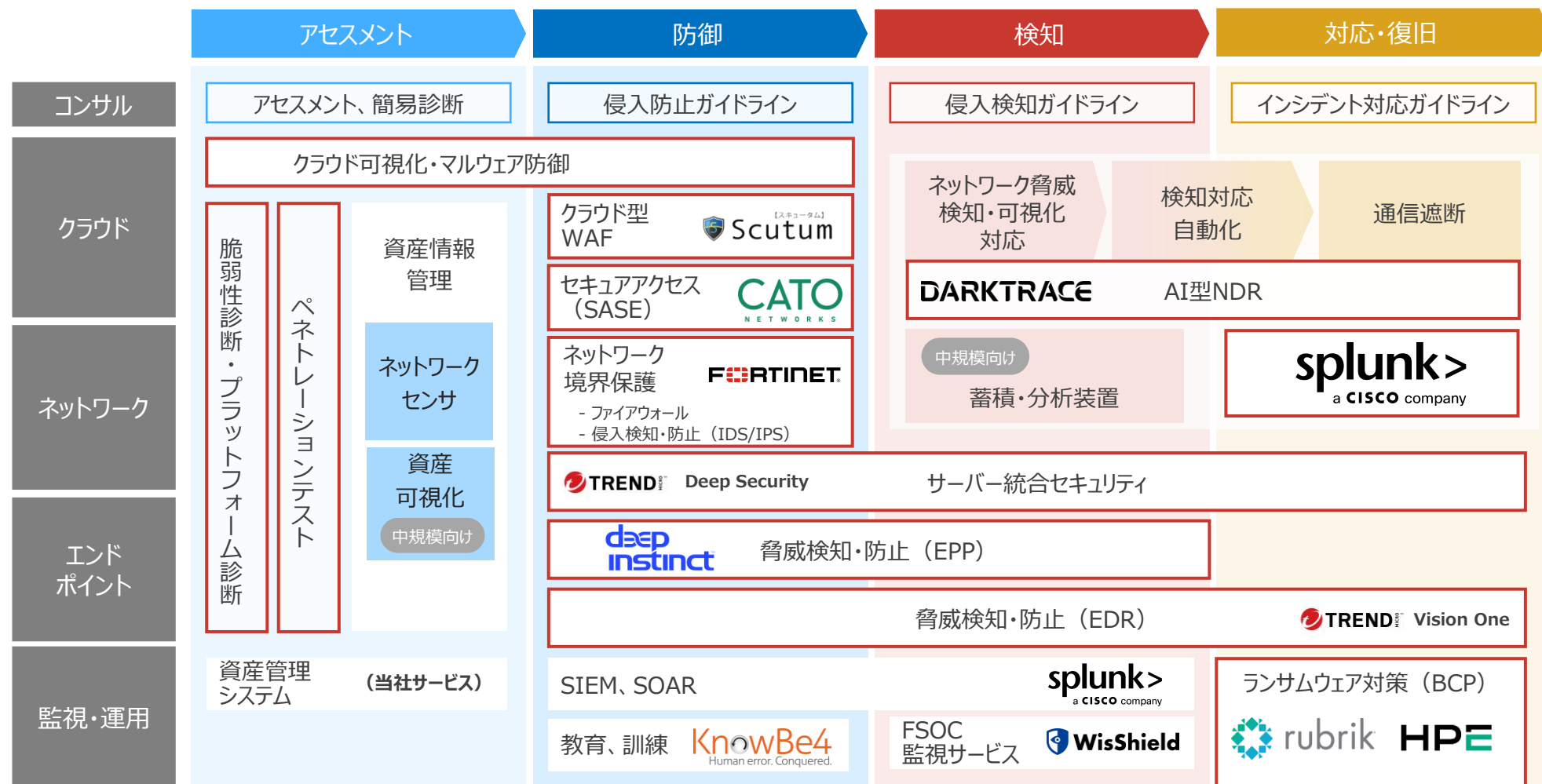
パート2：脱VMwareの提案事例

弊社は基盤/SI/運用サービスを組み合わせてライフサイクルを支援



【参考】セキュリティ対策ソリューションMAP

サプライチェーン全体のリスクまで、幅広いセキュリティ対策でカバー



ランサムウェア対策製品

パート2：脱VMwareの提案事例

比較表だけを見ても、自社に最適な製品かどうかを判断できない

評価項目	Hyper-V	OpenShift	VME	Nutanix	Proxmox	KVM
ハイパーバイザーコスト	○	○	○	△	◎	◎
VM管理	○	○	○	○	○	△
WindowsVMコスト	◎	△	○	○	△	△
RHEL VMコスト	△	◎	○	○	○	○
HA	○	○	○	○	○	○
ライブマイグレーション	○	○	○	○	○	○
スナップショット	○	○	○	○	○	○
バックアップ連携	○	△	○	○	○	△
監視	○	○	△	○	△	△

◎：優れている/○：標準的/△：考慮事項あり

パート2：脱VMwareの提案事例

可用性強化と障害対応時間の短縮を実現 提案ポイント：運用・サポート/移行性・将来性

お客様の課題

- ✓VMware vSAN基盤の保守期限を見据えた更改が必要
- ✓24h×365Dの安定稼働を支える可用性とデータ保護を強化したい
- ✓将来的なシステム拡張やリソース増設に柔軟に対応できる基盤を構築したい

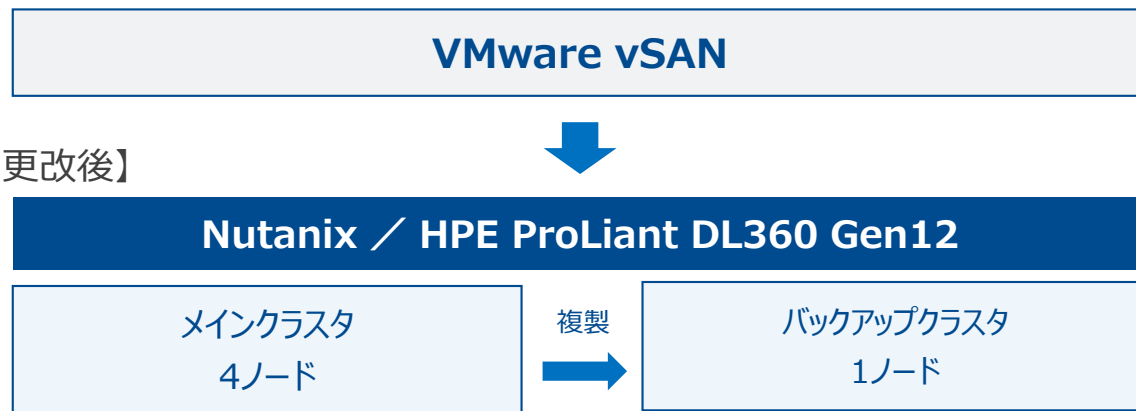
導入SOL

- ✓NutanixとHPE ProLiant DL360 Gen12を採用し、高可用性を備えたHCI基盤を構築
- ✓HA構成と機器冗長化により、事業継続性を向上
- ✓24時間365日の監視およびワンストップ保守サービスを提供

導入イメージ

【現行】

VMware vSANからNutanixへ移行/
メイン・バックアップ方式によるNutanixノード冗長化



期待される効果

- ✓メイン環境とバックアップ環境の分離により、データ保護を強化
- ✓ノード追加による柔軟な拡張性を確保し、将来的なシステム増強に対応
- ✓保守窓口の一元化とリモート調査により、障害発生時の迅速な対応を実現

パート2：脱VMwareの提案事例

運用負荷削減と拡張性を両立

提案ポイント：コスト/運用・サポート

お客様の課題

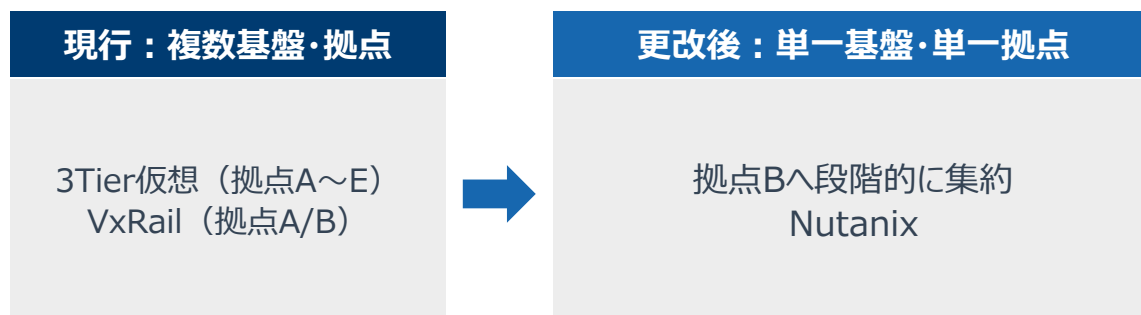
- ✓分散している仮想基盤・設置拠点を集約し、運用管理の負荷を削減したい
- ✓障害対応の標準化を図りたい
- ✓将来のクラウド活用を見据え、過剰投資を抑えながら基盤を刷新したい

導入SOL

- ✓HPE DXとNutanixを採用し、インフラ基盤を統合
- ✓HPE GreenLakeの従量課金モデルを活用し、将来のリソース増減に柔軟に対応
- ✓弊社による監視代行・運用支援を提供

導入イメージ

拠点および3Tier仮想・VxRailを順次集約



期待される効果

- ✓HCI基盤への集約により、複数拠点・複数基盤の運用管理負荷を軽減
- ✓HPEと弊社の連携により、障害発生時の迅速な対応を実現
- ✓利用リソースに応じた課金体系により、将来のシステム拡張やクラウド活用に柔軟に対応

パート2：脱VMwareの提案事例

既存資産を最大活用し、更改コストを最小化 提案ポイント：コスト/移行性・将来性

お客様の課題

- ✓ハードウェア価格の高騰により、従来と同水準の予算で基盤更改を実施することが困難
- ✓VMwareやハードウェアのEOSLを見据えた基盤更改が必要
- ✓システム停止や業務影響を抑えながらインフラ刷新を進めたい

導入SOL

- ✓既存サーバーを再利用し、新規共有ストレージを導入することで初期投資を最適化
- ✓VMwareからHyper-Vへ移行し、対象サーバーをHA構成へ刷新
- ✓OS・監視・バックアップ環境を更新し、段階的な移行計画を策定

導入イメージ

【現行】



【更改後】



サーバーは延長保守
ストレージは新規購入
Hyper-V + ゲストWinは新規構築
待ち受け方式での移行

期待される効果

- ✓既存資産を有効活用することで初期導入コストを抑制
- ✓HA構成により障害時の停止リスクを低減し、システム可用性を向上
- ✓段階移行により業務影響を最小化し、更改後も安定した運用を実現

パート2：脱VMwareの提案事例

停止時間を抑えたHyper-V移行を実現

提案ポイント：コスト/移行性・将来性

お客様の課題

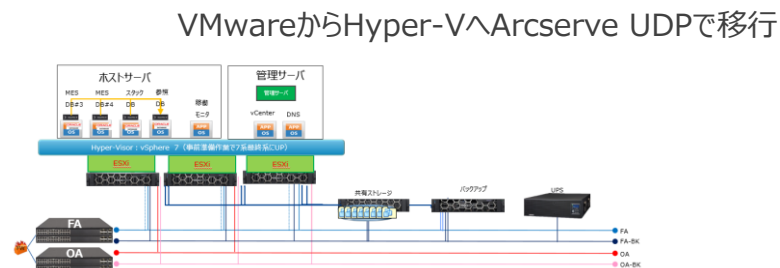
- ✓VMwareからHyper-Vへの移行にあたり、停止時間を最小化したい
- ✓限られた予算の中で更改と性能要件を両立したい
- ✓UPS更改に伴い、電源制御方式を見直したい

導入SOL

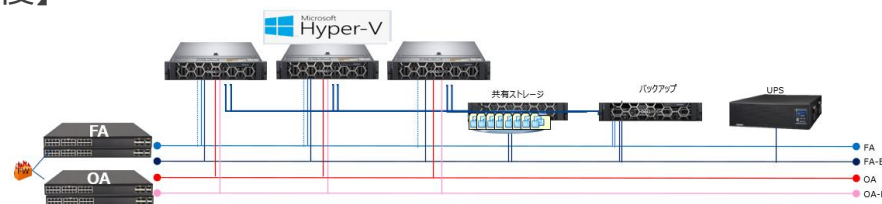
- ✓Hyper-V、共有ストレージ、Arcserve UDPを活用した仮想基盤を構築
- ✓Arcserve UDPのレプリケーション機能を活用した事前差分同期で、移行停止時間を最小化
- ✓複数の仮想マシンをVirtuAttendantへ集約し、電源制御を統合

導入イメージ

【現行】



【更改後】



期待される効果

- ✓サーバー・ストレージ・UPSを含む仮想基盤を更改し、保守・安定性を向上
- ✓事前移行検証およびバックアップ活用により、移行時の業務影響を最小化
- ✓仮想マシンの停止・起動を自動化し、運用負荷を軽減

パート2：脱VMwareの提案事例

運用工数削減と障害復旧時間短縮を実現

提案ポイント：コスト/運用・サポート

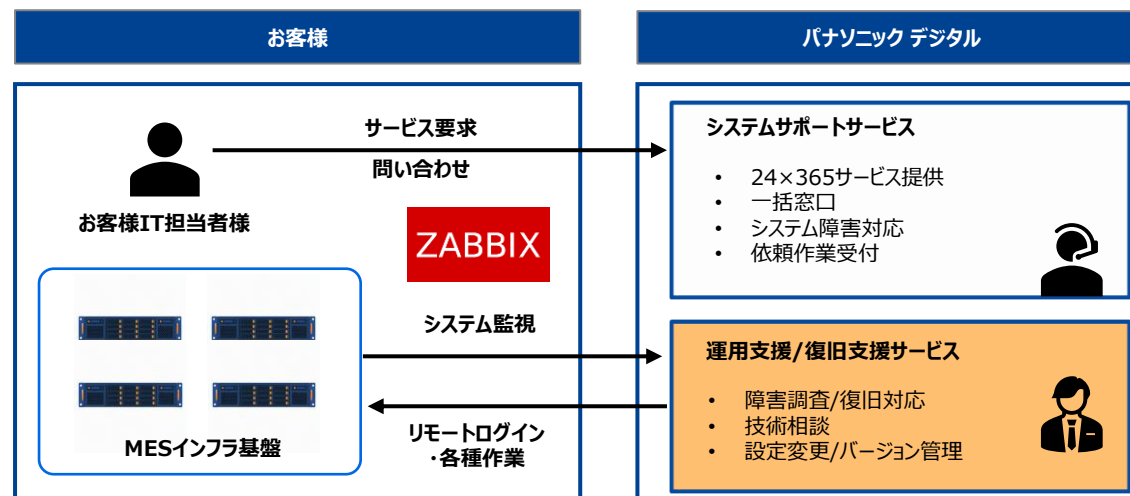
お客様の課題

- ✓保守問い合わせ時にシステム構成や運用状況を考慮した回答が得られない
- ✓障害調査やベンダー調整に運用担当者の負荷が集中している
- ✓スキル不足により障害復旧に長期間を要している

導入SOL

- ✓MES環境を熟知したSEによる24h×365D運用支援
- ✓障害調査・ベンダー調整・設定変更を含む運用代行
- ✓メーカー保守範囲外を含めた復旧サービスを提供しシステム復旧までを継続支援

導入イメージ



期待される効果

- ✓問い合わせ対応時の調査工数・情報整理工数を削減
- ✓障害調査やベンダー調整業務を代行し運用工数を年間約300時間削減
- ✓障害発生時の復旧時間を最大40時間短縮し生産影響を最小化

リリース当初は、構成・コスト・移行・運用に多くのハードル

①構成によって制約が異なる

HCI構成ではHPEサーバーがGen11のみサポート。
3Tier構成では外部ストレージの選択肢は
AlletraMPB10000のみ、接続プロトコルもFCをサ
ポートしない。

②ダークサイトで利用不可

インターネット非接続環境での導入・運用に対応でき
ない。

③ノード追加ができない

構成後のスケールアウトできず、将来のリソース増強計
画が立てにくい。

④RHELのVM台数無制限ライセンス利 用不可

Virtual Datacenterサブスクリプションが使えず、
RHEL VMが多い場合にはVMEのライセンスコストのメ
リットを相殺してしまう

⑤移行前に必要な作業があったり、移行 に伴う停止時間が長い

Windows VM移行時は事前にVirtIOドライバーの
手動インストールが必要であったり、コールド移行しかで
きない。

⑥サポートゲストOSが少ない

サポートマトリクスに記載されているゲストOSが少ない。
レガシーOSはSATAドライバー使用で動作するケース
はあるが、パフォーマンス懸念がある。

⑦サポートされているUPSやバックアップ 製品がない

サポートUPSがなく、停電時の自動シャットダウン連携
ができない。エージェントレスに対応したバックアップ製
品がない。

⑧監視機能が弱い

標準の監視機能にSyslog転送・SNMPトラップがな
い。

⑨技術ドキュメントが不十分

最小限のドキュメントしかないため、HPEに問い合わせ
しないとわからないことが多く、仕様上の制約や手順が
よくわからない

※リリース当初=VME v8.0.4(2025年春頃)時点

パート3：VMEの現状

移行・運用の制約を緩和し、構成・ライセンスの選択肢を拡大

項目	変化内容
HCI構成	Gen12シリーズをサポート
UPS連携	オムロンとUPSソリューションズがサポート
移行時の停止時間	ウォーム移行に対応
移行前の対応	VirtIOドライバーの自動インストールに対応
RHELライセンス	VM台数無制限ライセンスを利用可能
ダークサイト	ダークサイトでの利用可能
拡張性	ノード追加可能
VM配置	冗長VMを別ホストに分散配置（アンチアフィニティ）
ランサムウェア対応	ランサムウェアの検知・アラートに対応
エージェントレスバックアップ	VMごとのエージェントなしでバックアップ・復元
最小ホスト数	クラスタをホスト2台から構成可能

対応範囲は構成により異なります。

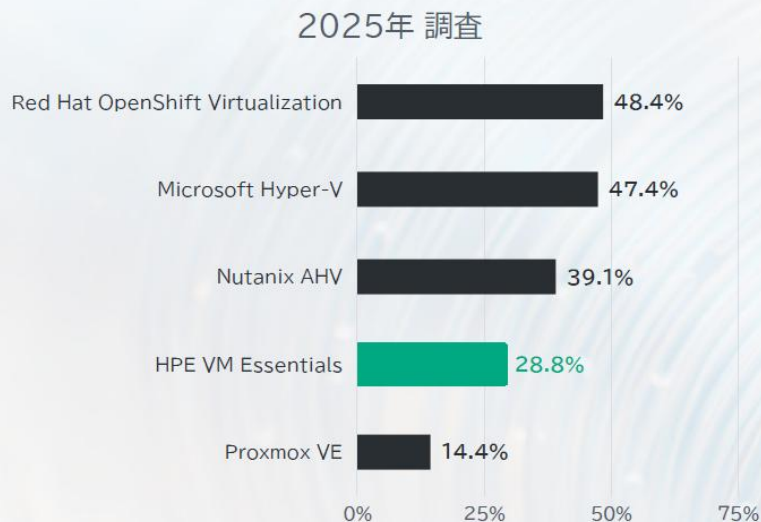
出典：HPE各資料、Veeam正式提供発表、オムロン対応資料・UPSソリューションズ検証報告。詳細はSession3。

VMEは脱VMwareの有力候補の一つ

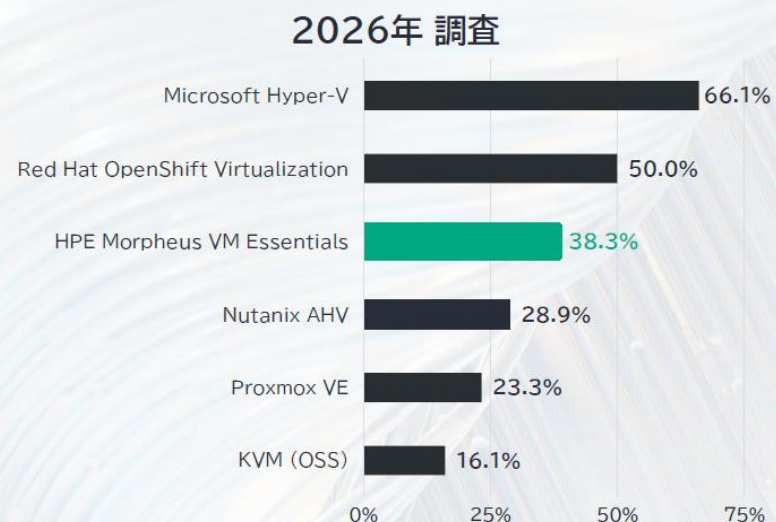
HPE Morpheus VM Essentials

国内リリースから1年。「移行先として検討中の仮想化環境」の3位に躍進（IDC Japan, 2026/5）

移行先として検討中の仮想化環境



Source: 2025年 国内IT-インフラ支出動向調査 AIインフラと仮想化環境の展望 (IDC #JPJ52158225、2025年3月)
Note: 複数回答。ハイパーバイザーの変更を検討・計画している回答者 (n=215) 「その他」「分からない」は除く



Source: 2026年 国内IT-インフラ支出動向調査 ソブリンAI対応がプライベートAIインフラ投資を促進 (IDC #JPJ53501126、2026年5月)
Note: 複数回答。ハイパーバイザーの変更を検討・計画している回答者 (n=180) 「その他」「分からない」は除く

© Copyright 2026 Hewlett Packard Enterprise Development LP

出典：HPE「[IDC調査結果：乗り換えたいハイパーバイザー2026版](#)」

基盤選びから、移行後の運用まで支援します

1. 課題に合った基盤を提案

既存資産や予算、運用の条件に合わせて選びます。

2. 業務への影響を抑えて移行

事前準備と段階移行で、停止時間を抑える計画を立てます。

3. 移行後の運用・復旧まで支援

監視だけでなく、障害調査やベンダー調整にも対応します。

まずは、今困っていることを聞かせてください。

Panasonic